

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表  
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年2月27日

北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
加賀市地域公共交通活性化・再生協議会	加賀温泉バス(株)	(路線名) 温泉片山津線 (運行区間) 加賀温泉駅～片山津温泉～石川病院～湖城団地～加賀温泉駅	今年度もMM施策として、加賀市内全世帯及び高校の新入生に時刻表を配布することで利用促進を図った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 本年4月から(一社)加賀市観光交流機構との提携で開始した周遊クーポンの効果もあり、1便あたり乗車人数は15.02人と目標の13人を上回ることができた。	市内全世帯及び高校の新入生に時刻表を配布することで利用促進を図る。また、周遊クーポンの認知度向上を図るため金沢市内の拠点乗車券窓口での販促を検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
加賀市地域公共交通活性化・再生協議会	加賀温泉バス(株)	(路線名) 山代大聖寺線 (運行区間) 山中温泉～山代温泉東口～上河崎～大聖寺駅～大聖寺実業高校～かが交流プラザさくら	今年度もMM施策として、加賀市内全世帯及び高校の新入生に時刻表を配布することで利用促進を図るとともに、ダイヤ改正を行い効率的な運行に努めた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 今年度は通学定期利用が増加したこともあり、1便当たり乗車人員は12.54人と目標の12人を上回ることができた。	沿線の高校と連携し、高校生への周知を強化することで、特に高校生の通学での利用増加を図る。また、市内全世帯及び高校の新入生に時刻表を配布することで利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
加賀市地域公共交通活性化・再生協議会	加賀温泉バス(株)	(路線名) 温泉大聖寺線 (運行区間) 加賀温泉駅～松が丘～大聖寺駅～かが交流プラザさくら	今年度もMM施策として、加賀市内全世帯及び高校の新入生に時刻表を配布するとともに、沿線の小学校において「路線バスふれあい教室」を実施し利用促進に努めた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 今年4月より減便を実施。効率的な運行に努め、1便当たり乗車人員は5.28人と目標の4人を上回った。	沿線の高校と連携し、高校生への周知を強化することで、特に高校生の通学及び部活動での利用増加を図る。また、通学時間帯において大聖寺実業高校起終点となる系統が運行できないか検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
加賀市地域公共交通活性化・再生協議会	加賀温泉バス(株)	(路線名) 吉崎線 (運行区間) 加賀温泉駅～上河崎～大聖寺駅～塩屋	今年度もMM施策として、加賀市内全世帯及び高校の新生児に時刻表を配布することで利用促進を図った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	沿線中学校の通学定期利用があるものの、定期外利用が落ち込み、1便当たり乗車人員は10.16人と目標の13人を下回った。	市内全世帯及び中学校・高校の新生児に時刻表を配布することで利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、定期外利用が落ち込んだ根本的な要因について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
加賀市地域公共交通活性化・再生協議会	日本海観光バス(株)	(系統名) キャンパス空港線 運行区間 加賀温泉駅～片山津温泉～空港	沿線住民に割回数券の利用促進、Wi-Fi設置をパンフレットに記載して、利用促進に努めた。	A	事業が計画的に位置づけられた通り、適切に実行された。	C	1便当たり、2.62人と目標の3人に達していない。原因は冬季間の利用は多いが、夏季が減少していた。	年間を通しての利用促進をパンフレット等で告知し、観光客向きに交通系ICカードが事務所でご利用できることも告知して、利用促進に努める。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、夏季の利用が減少した根本的な要因について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。